

平成26年度資源評価票(ダイジェスト版)

[Top](#) > [資源評価](#) > [平成26年度資源評価](#) > [ダイジェスト版](#)

標準和名 ヒラメ

学名 *Paralichthys olivaceus*

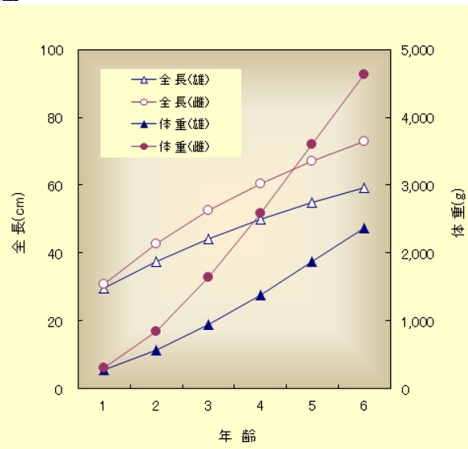
系群名 太平洋北部系群

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特性

寿命：雄10歳以上、雌20歳以上
成熟開始年齢：雄2歳以上、雌3歳以上
産卵期・産卵場：5～9月(盛期6～8月)、沿岸各地の粗砂および砂礫地帯(水深20～50m)
索餌期・索餌場：沿岸各地の主に水深30m～150mの陸棚
食性：着底稚魚はアミ類、全長10cm以上は魚類やイカ類
捕食者：着底直後はヒラメ当歳魚やエビジャコ類、着底後1～2ヶ月はヒラメ1～2歳魚や大型の他魚種

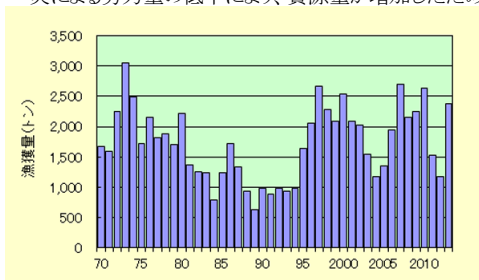


漁業の特徴

小型底びき網、刺網、定置網、沖合底びき網等により周年漁獲されている。漁法により漁獲物の体長組成は異なるが、全般的に全長50cm以下(1+、2+歳)が漁獲物の大半を占める。資源保護と管理を目的とした水揚げ物の全長制限(30、一部では35cm)が、各県で実施されている。また、1990年台から種苗放流が盛んに行われている。東日本大震災の影響で、2011年、2012年の漁獲努力量、放流量ともに減少した。

漁獲の動向

漁獲量は周期的に変動している。2004年に最低となった漁獲量はその後増加に転じ、2006年以降の漁獲量はほぼ2,000トン以上を維持していた。しかし、東日本大震災に伴う漁獲努力量の大幅な減少のため、2011、2012年の漁獲量は大きく減少した。2013年の漁獲量は約2,400トンまで増加したが、この理由は、2010年の卓越年級群発生や震災による努力量の低下により、資源量が増加したためと考えられる。

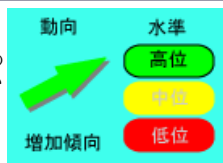


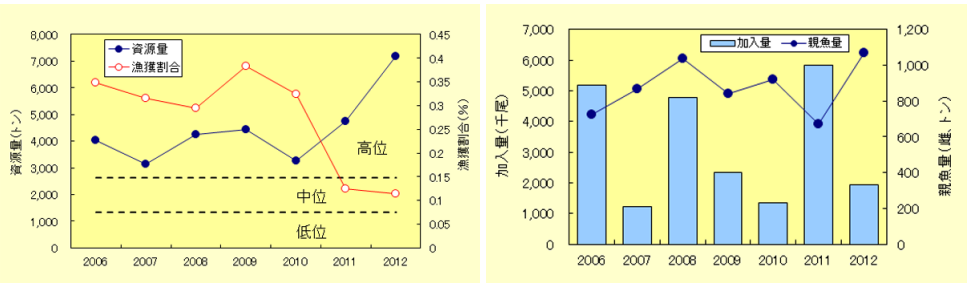
資源評価法

2006～2012漁期年度(7月～翌年6月)における宮城、福島、茨城県の水揚げ物全長組成を半年ごと(7～12月、1～6月)に集計し、期間ごとに作成した性別age-length keyを適用して、雌雄別年齢別漁獲尾数を計算した。これらを年度で集計し、雌雄別にコホート解析を行い、雌雄別年齢別の資源尾数を推定した。この値を系群全体に引き延ばした。

資源状態

資源量は1歳時の漁獲加入量の影響を強く受け、約10年周期で増減を繰り返している。近年では、2004年度に最低となった資源量は、2005、2007、2010年の卓越年級発生により、2006年度以降高位水準を保っている。資源量は2006年度の4,033トンから2012年度の7,191トンまで増加した。漁獲率は2006～2010年度は45～59%(平均51%)を推移していたが、震災により2011年度は19%、2012年度は18%に激減した。2012年度の雌産卵親魚量は1,069トンとやや増加した。





管理方策

現在、本資源の状態は良好で、現状の漁獲圧を維持しても当面は1990年以降の平均的な資源量水準を維持できると考えられる。従って、 F_{limit} を $F_{current}$ 、 F_{target} を $0.8 \times F_{current}$ とした。なお、2010年度以降、震災の影響でFの値が大きく減少していることから、 $F_{current}$ を2007～2009年度のFの平均値とした。2013年度以降の1歳の資源尾数は、過去7年の値から卓越年級群を除いた4年間の平均値を与えた。2013、2014年度のF値は、2011年3月に発生した震災の影響を考慮し、それぞれ2007～2009年度の平均値の0.38倍、0.40倍とした。

	2015年ABC	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	3.99千トン	F2007-2009	0.75	48%
ABCTarget	3.43千トン	0.8F2007-2009	0.60	41%

- ABC算定規則1-3)-(1)を用いた
- ABC、F、漁獲割合は漁期年度(7月～翌年6月)の値
- Fは各年齢のFの平均値
- F2007-2009は2007～2009漁期年度の平均値

資源評価のまとめ

- 近年の資源水準は高位、動向は増加
- 最近7年間(2006～2012年度)では、2005年級、2007年級、および2010年級の豊度が非常に高い
- 2012年度の親魚量は高い水準であった

管理方策のまとめ

- 資源量を1990年度以降の平均的なレベルに維持するために、漁獲圧を現状程度にする
- 水揚げ物の全長制限を今後も維持する

執筆者: 栗田 豊・玉手 剛・服部 努・柴田泰宙・伊藤正木

資源評価は毎年更新されます。